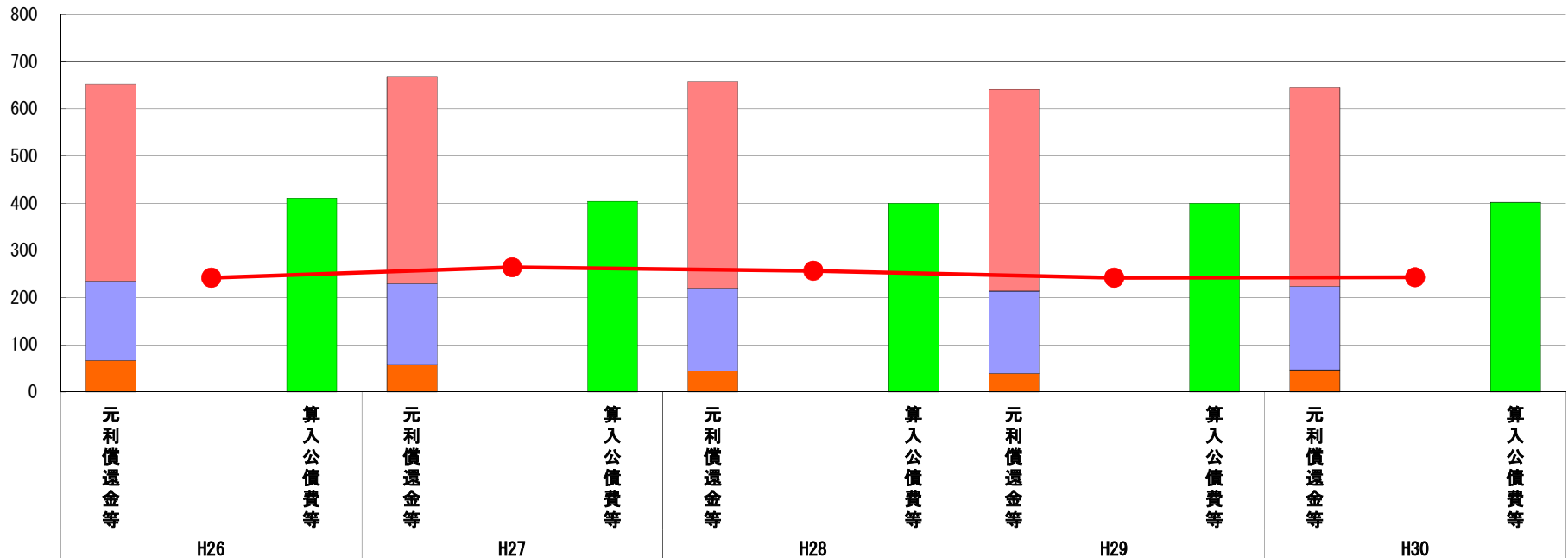


(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

宮城県大郷町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
元利償還金等 (A)	元利償還金		418	438	437	428	421
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		168	172	175	175	177
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		67	58	45	39	47
	債務負担行為に基づく支出額		0	0	0	0	0
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)			411	404	400	400	402
(A) - (B)			242	264	257	242	243

分析欄

実質公債費比率は年々減少してきており、平成30年度は前年度より0.2ポイント減少し、9.6%となっている。

元利償還金については、前年度より7百万円減少し、今後も地方債の新規発行の抑制により減少していく見込みである。

また、公営企業債の元利償還金に対する繰入金は、前年度より2百万円増額となっている。今後は据置期間が経過するため増加傾向となる見込みである。

今後、学校教育設備等に係る起債償還が見込まれており、地方債の新規発行抑制等引き続き健全化の維持に努める。

※1 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

		年度	H25末	H26末	H27末	H28末	H29末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額		-	-	-	-	-

分析欄

利用していない

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。